

Ver.20230720

ピュアード施工要領書

Opus 株式会社オーパス

<材料荷姿、標準施工面積及び使用方法>

適用下地	ディバネートトップコート
ピュアード1液	12 kg/缶
ピュアード2液	3 kg/缶
配合(重量比)	1液：100 2液：25
施工面積	100 m ² ～150 m ² /セット
塗り回数	1回塗り
間隔時間	工程間…ディバネート施工後 24時間以上 最終養生…夏季 24時間以上 冬季 48時間以上

※記載の量は使用する量の目安となります。

<施工に使用する道具>

・スプレー施工の場合

カップガン、エアレスなどの霧状に吹ける塗装器具

エアレスで施工する場合は口径の小さいもの(0.79 mm)を使用して下さい。

※口径が大きい場合、塗布量が多くなり、液ダレの原因となります。

コンプレッサー：2.2kW(3馬力以上) (ガン1台使用の場合)

・ローラー施工の場合 (小面積)

専用ローラー JR-220H(MicroACE13 mm)大塚刷毛製造株式会社製

※ローラーでの施工は小面積の場合に可能です。ローラーで施工する場合、液ダレが起きやすいため、塗布後、追いかけて乾いたローラーを転がして下さい。

<注意事項>

塗り忘れ防止の為に淡い白色を着色しております。

外壁等に施工後は紫外線により、無色透明になります。

塗膜が厚くなったり、液だれが発生すると、白く残る事がありますので、ご注意ください。

<ピュアード施工方法>

1.下地処理

- ・適用下地はディバネートトップコートです。

ディバネートトップコートを施工後24時間以上養生し、完全に乾燥させて下さい。

- ・埃や油分等の付着物は完全に除去して下さい。
- ・下地にクラックが入っている場合はシーラー処理して下さい。

2.施工方法

【スプレー施工の場合】

・施工道具の調整

水を塗装器具に入れ、霧状に吹けるように吹圧力を調整する。

- ・圧力が低い場合…細かい霧状にならない
- ・圧力が高い場合…ガンの上下の塗布量が多くなる

※合板やビニール(マスカーなど)に吹いて調整すると確認しやすいです。

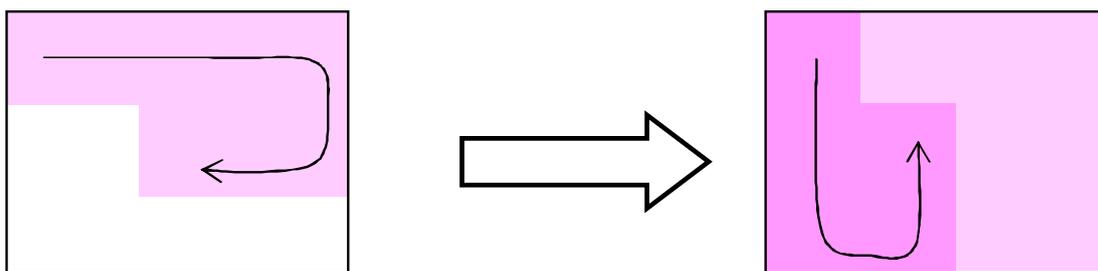
・塗布量の調整

使用量が $0.1\sim 0.15\text{ kg/m}^2$ となるように水を計量する。

例： $0.1\text{ kg}\times 1.8\text{ m}^2=0.18\text{ kg}(180\text{g})$

3×6 尺の合板などにビニール(マスカーなど)を貼り、吹付け作業を行い、材料を使いきるように施工する。この作業で塗布量の感覚を覚える。

※ 吹圧力はガンの手元での圧力をさします。ガンの種類やホースの長さで圧力が変化しますので、材料の出方を見て調整して下さい。



使用量の半分を吹き付ける

残り半分で縦方向又は横方向に施工する

2回で仕上げる場合、パターンの方向に沿って施工して下さい。

例：レガート、カンフィルなど→水平方向に2回

マダンテ、シミーレなど →垂直方向に2回

ゆず肌、玉ふりなど →縦横1回ずつ

<塗布量についての注意>

塗布量の値(約 $0.1\sim 0.15\text{ kg/m}^2$)は無風・常温(20°C)での使用量です。強風・高温・低温などの気象条件下での施工は使用量が変化しますので、上記の「施工道具の調整」や「塗布量の調整」を必ず行って下さい。液だれが発生した場合、仕上がり不良の原因となりますので速やかにウエス等で拭き取って下さい。

・塗布量の調整方法について

ビニール(マスカー・ビニール袋を切り開いたもの)に計量した水を全量吹き付けて塗布量の調整を行います。

～最適塗布量の目安～

ビニールが白く曇り、水滴が垂れない状態

指で施工面をなぞると跡がわかるような状態

×塗布量が多い…水滴が垂れて流れた跡ができます

×塗布量が少ない…指でなぞっても跡がつきません



最適塗布量
(指でなぞった跡が残る)



塗布量が多い場合
(水滴が生じ、流れた跡ができる)

・塗布量の調整方法

・塗布量が多い場合

ニードルを絞り、塗料の出る量を少なくする、材料の出る幅を広げる、圧力を調整する
手の動かし方を早めにする

・塗布量が少ない場合

圧力を調整する、ニードルを開け、塗料の出る量を多くする、材料の出る幅を絞る
手の動かし方をゆっくり目にする

【ローラー施工の場合】

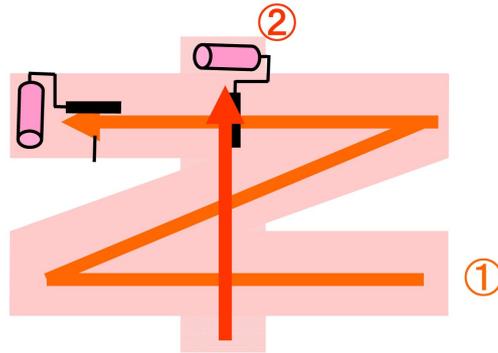
ピュアードは低粘度となっております。

ローラーをピュアードに浸し、よくしごいてから使用して下さい。

塗布する際は、横に配るように塗り広げた後、下から上に拾いながら伸ばして下さい。

塗膜が薄いほど効果を発揮します。出来るだけ薄く塗布して下さい。

塗布量が多いと液だれが発生します。液だれをそのままにしておくと筋状に白く残ります。液だれが発生した際は速やかにウエスなどで拭き取って下さい。



塗布方法 イメージ図

3.施工上の注意事項

1. 施工する際は必ず1液と2液を指定の配合比で混合したものを使用して下さい。(2ページ参照)
2. 1液と2液の混合溶液は一度の施工(混合した日)で使い切して下さい。
保存するとゲル化する事があります。
3. ピュアードは塗料の状態では淡い白色をしています、塗布後2~3日ほどで色は消えます。(下地の条件により異なります)
4. 塗布量を守って施工して下さい。塗布量が多いと白色が消えない事があります。
5. 低粘度である為、塗布しない床、壁、窓などの養生をしっかりと行って下さい。
液だれした場合、速やかにウエス等で拭き取って下さい。そのまま乾燥すると筋状に残る事があります。



6. 施工後、乾燥する前(夏季：24時間 冬季：48時間以内)に雨にあたると仕上がり不良になります。雨が予想されるときは雨養生を行うなどして十分に乾燥させて下さい。
7. 下地が濃彩色の場合に色ムラ(仕上がりが白っぽくなるなど)が発生する事があります。
施工する際はあらかじめ目立たない場所で試し塗りをして、仕上がりを確認してから施工して下さい。
8. 塗布量が多い場合、十分に低汚染性が発現できない場合があります。指定塗布量を守って施工して下さい。
9. 降雨、降雪時及び5℃以下、(湿度85%以上)での施工は絶対に避けて下さい。気温5℃

- 以下で施工する場合、採暖により雰囲気温度、被塗面温度を5℃以上にして下さい。
10. 塗り忘れ部分には汚れが発生する可能性があります。塗装は目地、面、足場板などで区切って行き、休憩などで塗装を中断する場合にはテープなどで目印を付けて下さい。
 11. 低温時、高湿時は乾燥が遅くなりますのでご注意ください。
 12. 研磨、高圧洗浄など物理的に負荷をかけた場合、性能を発揮しなくなるおそれがあります。
 13. 本製品を施工したうえで塗料を塗布すると低汚染性が失われます。
 14. シーリング材からの可塑剤の流出が多い場合など、汚れの負荷が大きい場合には十分な効果が発揮できない可能性があります。サビや鳥糞などに対しては効果を発揮しません。
 15. アルミサッシ、ガラス等は全面養生して下さい。また、建物外部への飛散を避けるため足場の周囲は十分に養生をして下さい。
 16. 下地は十分に乾燥させて下さい。低温時(20℃以下)はディバネート施工後24時間以上乾燥させて下さい。
 17. 密栓の上、火気のない5～35℃の直射日光の当たらない場所に保管して下さい。
 18. スプレーで施工する場合、強風での施工は避けて下さい。霧状に材料を塗布する為、施工不良となります。
 19. 開封後、保管する場合は必ず密栓して下さい。
 20. 施工の際は臭気等のトラブルを防ぐため、事前に近隣への案内などに配慮して下さい。
 21. 器具を洗浄した水を河川、側溝への流出は避けて下さい。
 22. 施工する際は防毒マスク、保護メガネ、保護手袋を着用して下さい。
 23. 塗料が目に入った場合、皮膚に付着した場合、飲み込んだ場合は洗眼、洗浄、うがいをし、医師の診断を受けて下さい。
 24. 下地のディバネートが塗れた状態でピュアードを施工すると乾燥後シミ状に白くなる事があります。ピュアードを施工する前に降雨があった場合、雨が止んだ後24時間以上乾燥させてから施工して下さい。(表面が乾燥していても完全に乾燥していない場合は白くなる原因となります)
 25. 下地による施工方法について
 - 凹凸が大きいパターンに施工するにはカップガン、エアレスで施工して下さい。
 - 下地の色が濃い色の場合はカップガン、エアレスでの施工を推奨します。
 - 下地の色が薄い色で、且つ平滑なパターンの場合はローラー施工が可能です。液だれが無いように指定ローラーを使用し、よくしごいてから施工して下さい。